

## ホームドア方式のワンマン運転を計画

東横線複々線化事業・目黒～武蔵小杉間

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：清水 仁）では、平成12年秋に予定している目黒駅での営団南北線、都営三田線との相互直通運転開始に伴い、目蒲線の運行系統を目黒～蒲田間から、目黒～武蔵小杉間と多摩川園～蒲田間に変更し、目黒～武蔵小杉間においてホームドア方式のワンマン運転を実施する計画です。

今回、目黒～武蔵小杉間で計画しているワンマン運転は、長編成運転に対応するものとして、ホーム柵・ホームドアで安全性を確保する方式を採用しています。具体的には、到着・出発・通過時の安全をホーム上に設置したホーム柵（高さ：130cm）とホームドアで確保し、運転士が運転席に設置されたモニターテレビで利用者の乗降状況を確認してドアの開閉を行うものです。また、ホーム柵・ホームドアを設置したことで、ホームの乗降部が決まっていることから、運転士が列車を停止位置に停止させるために定位置停止支援装置を設備しています。

当社では、鉄道事業のより一層の効率化を図るために、平成10年3月から池上線（3両編成運転）においてホーム柵と光センサーによるホームセンサー方式のワンマン運転を実施しています。また、同方式によるワンマン運転を目蒲線運行系統変更後の多摩川園～蒲田間においても実施する計画です。

目黒～武蔵小杉間に導入する「ホームドア方式のワンマン運転」の概要は次のとおりです。

## 「ホームドア方式のワンマン運転」の概要

### 1. 設 備

#### ①ホーム柵・ホームドア

列車のホーム到着・出発・通過時において、利用者の安全を確保するための装置です。

#### ②車載モニターテレビ

列車のドアの開閉時などにホーム上の利用者の状況を運転士が把握するための装置です。

##### ・地上装置

ホーム上に設置された3～4台のカメラが画像を無線で車上装置に送ります。

##### ・車上装置

地上装置から送られてきた画像を運転席のモニターテレビ（6インチ液晶モニター・4画面）に映し出します。

#### ③定位置停止支援装置

運転士が列車を所定位置に停止させるための支援装置です。

#### ④車内非常通報器

各車両のドア付近に設置しているもので、車内で具合の悪い方が出た場合などの緊急時に利用者が直接、運転士または運輸司令所の職員と通話できる装置です。

### 2. 動作手順

①列車到着時にはホームドアが閉まっています。

②列車到着後、列車のドアとホームドアが連動して開きます。ホームドアが開閉する際には、チャイムにより利用者に注意を促します。

※ホームドアが開く時に戸袋に荷物等が引き込まれかけた場合、ホームドアがこれを検知して閉動作を行い、再び開動作を行います。

③乗車終了後、列車のドアとホームドアが連動して閉まります。

※ホームドアが閉まりかけた時にホームドアが利用者に当たった場合、ホームドアがこれを検知して開動作を行い、再び閉動作を行います。また、ホームドアが閉まる際に、何らかの障害物が列車とホームドアの間に存在する場合、光センサーがこれを検知して、いったんホームドアを開きます。

④列車のドアおよびホームドアが異常なく閉まったことを車載モニターで確認し、列車を発車させます。

以 上